

食べさせてほしいなとも思います。気持ちがあっても技術がないと、なかなかうまくいかないと思います。

**小野** 私がよく言われるのは、言葉だけやさしくて実際には何もやらないじゃないかということですね(笑)。技術があつて初めて真の意味の言葉かけができるんじゃないかと思います。

## 家事育児をやる男は かわいそう？

**大塚** 私の出産のとき、夫の母が来てくれたんですが、息子のことが心配で来てるのが感じとれるんです。おとなだから一週間くらいなら何とかなると思うのですが、仕事もあるのに、子ども達の世話や家事までやらせるのはかわいそうという気持ちがあるようです。もし、これが娘だったら、夫が単身赴任や入院したりしていなくても、仕事もして一人で子どもの世話をし、家事をするのがあたりまえ(?)。かわいそうとは思わないでしょう。女親と男の子の関係というのは、そういうものかなと思います。

**市川** 仕事をしているから忙しくて、家事を夫にやってほしいと思う反面、夫が台所に立っていると、ちょっと悪いかかなと思ってしまうところがありますね。

**大塚** 私自身は女の子二人のきょうだいで育ったんですが、食事後に母が片づけていると、父が私たちきょうだいに「手伝え」と言っていて、自分はゆっくりしている(笑)。「何で?」とずっと思っていました。「娘だから」かなと。また娘に対する親の思いや心配は、ありがたいと

思う反面、窮屈でした。子どもの頃は、父の女性に対する考え方に反発していたと思います。私自身、小さいときから、「男の子だったらよかったのに」とずっと思っていたように思います。今は、逆に女でよかった、と思っているんです。何でもすきなことができる(笑)、男性のほうが社会的役割が決まっただけで、以外の時間を与えられなかったりするけれど、女性は選ぶ間口が広いと感じます。

## 男は励まして？

**嶋田** 自分がやらざるを得ない立場になると、男の仕事、女の仕事なんて言うてる余裕はないし、自分なりにやっつけているという気持ちは当然あると思うんです。旦那さんなりに何かやってあげようかなと思つたときに、当然、家庭の中では奥さんの方が家のことは分かっていることが多いので、油がどこにあるか分からないとか、そういうことはあると思います。でも、「家庭は女の城だから手を出さない」とか、そういうのは変だと思えます。夫が家事をやっているときに、頑張っているねとかいう言葉も必要だと思います。

**市川** 言葉かけが必要ということですか。嶋田 男は単純。誉められれば嬉しい。気持ちよく旦那がやるように奥さんにも誉める余裕があればいいと思います。

**真鍋** 男性や子どもは「励まして!」と言うけれど、女である私のことは励ましてくれない。私にだけ、やさしい言葉を求めるな!という気持ちがあります。あえて言いたくないというか、反対のこと

しか、言葉として出てこない。洗剤の位置がわからないと言っても座敷の真ん中にあるわけではないのだから、私に聞くなど思ってしまうですね。

**小野** 洗濯機の周りを実質的に管理しているのであれば、「私が管理しているわけではない」といつてしまうと先に進まなくなります。仕事の場でも、自分の机と共用の場所では管理の方法が違います。洗濯機の周りでも一定の取り決めが必要だと思います。

## 共同作業のチャンスを つくる

**嶋田** 育児雑誌を見ると、女性が重労働だと感じている家事は炊事なんです。男性が料理を作るのは無理だとしても、後片づけを一緒にやるとか、テーブル拭いて準備をするとか、そういう共同作業のやり方もありますよね。奥さんが作る姿を見て料理も覚えるとか、参画する意識も生まれてくると思うんです。料理って、経験をつめばうまくなる。男性も子どもと一緒に料理するのもコミュニケーションのひとつだと思います。奥さんにしてみれば、散らかされるし後片づけは自分がやらなくちゃいけないから冗談じゃない、ということになるかもしれないけど。

**大塚** 仕事するとき、夫に料理を頼むとか何とかやっているし、子どもも「美味しかった」とか言っている。できるチャンスがあるといいんですよ。

**真鍋** 子育ても食事のしたくも夫婦一緒にいいですね。一人でやるなんてさみしいですよ。

**小野** 一緒にやれなくても、共有できる意識を持つことが大事だと思います。現実には、台所には一人しか立たなくても、あとの人が待っているのではなく、準備しているとかができるのであれば、それは自分だけで作っているということにはならないですよ。

## 子育ては母親の責任？

**大塚** 子どもが元気なときは何も言われないけど、子どもが病気になる、母親が仕事をしているせいになってしまふことはよくありますよね。うちの子がアトピーで病院に行ったら、女医さんが「抱きしめてあげてないんじゃないですか」などと言います。家庭の中でも、「さびしいんじゃない?」というような言葉が出たり…。自分の中にも、母性神話、三歳児神話を、ちょっと思うところがあります。親の愛情の度合いが、仕事をしているかどうかで計られ、しかも母親の愛情がまず問われる。学校でも家庭でも、何か起こると「お母さんのせい」で、なかなか「お父さんのせい」にはならないですね。

**真鍋** 私たちが若いときにはお父さんが赤ちゃんを抱えているのはあまり見なかったんですけど、最近、若い男性が赤ちゃんをおんぶしたりするのを見て、「変わったんだな」と実感します。昔は男が家事育児に参加すると、「いくじがない」「男らしくない」と言われました。家事子育ては一緒に楽しんでやるのが理想で